

大和小学校

研究主題 「学び合い高め合い意欲的に学ぶ児童の育成」
副題 ー国語力向上のための学習指導の工夫ー

I. 主題設定の理由

本校では昨年度より、学習の基礎・基本となる「国語力の向上」という今日的課題をテーマに取り上げて研究をスタートさせた。まず、本校の児童の実態をNRTやアンケートにより把握を行い、国語力における課題点について探っている。次いで、国語力に関して文科省資料の読み合いや講師を招いての研修によって学習を進めた。そして、子どもたちの実態から「読むこと」の領域における学習指導の工夫について、低・高2ブロックで学年の実態に応じた読みの課題の持たせ方に工夫をした検証授業を行った。また、読書活動推進のため保護者による読み聞かせ・上級生から下級生への読み聞かせ・親子読書などに取り組んでいる。そこで本年度は研究2年目としてこれらの研究や活動の継続と充実をはかるべく、この主題を設定した。

II. 研究内容

①具体的内容

- ・昨年度取り組んできた「読むことに対する意欲を高める」学習指導の工夫についての研究を進め、学年の発達段階に応じた指導のあり方について探る。
- ・実態調査やアンケート等1年間を通じての変容がとらえられるように実施する。

②研究の方法

- ・授業研究による検証
- ・一人一授業実践と報告（授業参観）
- ・先進校視察や実践，文献による学習
- ・「低」「高」のブロックによる授業研究活動の実践
- ・読書活動推進ブロックを有効に機能させ、それぞれの方向から読書活動の推進をはかる。

③研究の実践

- ・3年生研究授業「本と友だちになろう」指導者 高添勉
仮説…本の帯を作ってブックフェアを開き、友だちに本を紹介したり感想や意見を交換することにより、伝え合う技能や本に親しむ意識が高まるであろう。
- ・6年生研究授業「表現を味わい、豊かに想像しよう」指導者 渡邊満智子
仮説…文学作品における優れた比喻表現や情景描写をていねいに読み取ることで、情景を豊かに想像しながら読むことができるであろう。
- ・一人一実践…書くことをまとめよう、わかるように伝えよう など。
- ・読書推進活動…仲よし読書（上級生から下級生への読み聞かせ）、ボランティアによる読み聞かせ、あじさい読書・どんぐり読書（季節ごとの朝

読書), 家庭における親子読書 など。

III. 成果と課題

成果として、年度当初の学力検査により客観的に見た子どもの実態を捉えることができた。また、一学期と二学期に行ったアンケートからは、大和小の子どもたちの傾向を見取ることができた。そして意識の面から、一人ひとりの子どもに対する指導の手掛かりも得ることができている。

「低」「高」二つのブロックで研究を進めたが、これは効率的に働き、指導案の検討や授業の展開についてブロック内でプレ授業などを行い、工夫することができた。授業研究にむけ、学年の発達段階に近い担任が集まることで学年の様子を出し合ったりして研究活動が進められた。また、担任以外の先生方に所属してもらうことで、違った目線からの意見も出されることは研究の活性化につながった。

二つの研究授業と一人一実践は、いずれも「読むことに対する意欲を高める」指導が工夫され、「国語力」向上を意識して取り組まれていた。実践を通して、低・中・高の指導内容を、発達段階にそって、研究授業などで学ぶことができた。そして、それぞれの発達段階でおさえる内容について、またそれぞれの学年で上につながっていく内容について、実態をふまえる中で理解する機会となった。また、「読むこと」については、総合単元的に話す・聞く・書くことを絡めながら、単元を工夫することが意欲化につながるということがわかった。また、ねらいや指導の目標を明らかにしておき、指導と評価がきちんと一致するように綿密な指導計画が必要ということも明らかとなった。それぞれの実践により、子どもたちの読むことに対する意欲化をはかることができていた。

読書推進の取り組みとして、仲良し読書やあじさい読書・どんぐり読書など朝の読書の時間や読み聞かせの活動は定着してきた。子どもたちにとり、ボランティア、高学年、親、それに司書の方といった多くの人たちと関わり、支援を受け、多様な読書体験をしたことは、いろいろな面で励みとなり意欲化がはかられた。図書委員会や児童会の取り組みなど日常活動も含め、継続と充実がはかられている。

課題として、子どもの実態調査については、アンケートは子どもたちの実態に合わせて内容を考えていくことが必要なこと、また、学力テストも実施の方法や結果を学習指導にどう生かすかを検討していく必要があることが確認された。

研究体制としては、家庭地域との連携部会や校内読書連携部会では中心の担当者に負担が多くかかってしまっていた。部会として機能できるよう、時間や場を確保して取り組みを進めることが肝要である。

研究を進める中で、「読むこと」に至るまでの語彙、「言葉」や「漢字」に関する力の大切さも再確認されてきた。また、作文指導の難しさ、音読の効果なども出てきている。これらも参考にしながら、基礎基本の定着のための学習指導について、子どもの実態をふまえた上で課題を焦点化して、より効果的な方法を探っていきたい。また、読書推進の取り組みについても、継続と充実を進めていきたい。

(研究主任 窪川 純一郎)